

目録
上





八束穂乃ひすくの國の白
栲衣川長秋の海をせ
し百人一首のふりう
ひししと私あてし
穂の田のふくむふか
とゆふあてしうた

少くも金うしの下刀日

刑部卿貞直

百人一首峯櫛序

夕月夜小倉れ山々咲あ月ふ花を花新
花をみぢけいけう物り花百首ハ久しこれ
天乃下は力の國崎花さじく磯のふれ
くよ磯菜はむ花をも散るる花のれど
きく花を花をくけく見あなうけうに以
花を花のれくけくあなうけうに以

わく山ろくろくをばひく人をも
人しはひくくもあひくくなまはは婦をも
れあふ下道くすくくをを雪くれくく
喉まてる所のばくくくわが衣川の大人
乃蒙恵かけくくくくくくくくくく
ハサレ乃かけはくく物く見く物く
是川表山く下道くくくくくくくくくく

石根あ根くくはくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
わげめく花の香れくくくくくくく
葉の色のくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
鹿神社神を奥山く大坂くくくく

才^{コト}統どもをもちのひをばたれどあはざあるひあ
園べい^{タビ}神の芳あもあはる人さくあけいあはれひの
ゆれおもひしき書^{フミ}をえる人さくあてうりともひ
あしむとをらしとのひあやられる人はおほひ
れバあふびひあは俗言^{サレヒゴト}もて後^{トキ}あしつたを亨和元
年やひあししの十二月うくひあ衣川長娘

天智天皇

大^{オホ}友^{ミナ}父^{ミナ}ハ舒明天皇大^{オホ}友^{ミナ}母^{ハハ}ハ愛^{タカラ}皇女^{ミメ}極高^{ミメ}明重^{ミメ}祚^{ミメ}始^{ミメ}
天皇也^{ミメ}天皇^{ミメ}御^{ミメ}女^{ミメ}名^{ミメ}ハ葛城^{ミメ}又^{ミメ}中大兄^{ミメ}とやなる^{ミメ}天智^{ミメ}天皇^{ミメ}
開^{ミメ}別^{ミメ}天皇^{ミメ}又^{ミメ}天智^{ミメ}ともやなる^{ミメ}大^{ミメ}友^{ミメ}母^{ミメ}ハ奈良^{ミメ}新^{ミメ}小^{ミメ}津^{ミメ}海^{ミメ}人^{ミメ}

御^{ミメ}紀^{ミメ}といふ人^{ミメ}はく代^{ミメ}々の天皇^{ミメ}の御^{ミメ}歴^{ミメ}を考^{ミメ}へて二字^{ミメ}あて^{ミメ}給^{ミメ}
へなれると日本^{ミメ}紀^{ミメ}私^{ミメ}紀^{ミメ}ふ給^{ミメ}せり^{ミメ}也^{ミメ}江^{ミメ}大^{ミメ}津^{ミメ}とあて^{ミメ}明^{ミメ}皇^{ミメ}
し^{ミメ}山^{ミメ}城^{ミメ}國^{ミメ}山^{ミメ}料^{ミメ}鏡^{ミメ}山^{ミメ}小^{ミメ}蘇^{ミメ}り^{ミメ}あつれり

秋^{ミメ}北^{ミメ}田^{ミメ}北^{ミメ}の^{ミメ}ゆ^{ミメ}の^{ミメ}座^{ミメ}の^{ミメ}段^{ミメ}を^{ミメ}あ^{ミメ}て^{ミメ}我^{ミメ}衣^{ミメ}衣^{ミメ}ハ^{ミメ}あ^{ミメ}ふ^{ミメ}ぬ^{ミメ}れ^{ミメ}つ^{ミメ}
後^{ミメ}撰^{ミメ}集^{ミメ}旅^{ミメ}訪^{ミメ}ふ^{ミメ}歌^{ミメ}あ^{ミメ}て^{ミメ}後^{ミメ}と^{ミメ}て^{ミメ}出^{ミメ}り^{ミメ}六^{ミメ}帖^{ミメ}才^{ミメ}二^{ミメ}小^{ミメ}八^{ミメ}借^{ミメ}戸^{ミメ}
北^{ミメ}あ^{ミメ}小^{ミメ}出^{ミメ}せり

○里^{ミメ}走^{ミメ}キ^{ミメ}山^{ミメ}田^{ミメ}ノ^{ミメ}楠^{ミメ}ヲ^{ミメ}芥^{ミメ}ヲ^{ミメ}サ^{ミメ}ム^{ミメ}ル^{ミメ} 借^{ミメ} 才^{ミメ} 序^{ミメ}
ガ^{ミメ}ウ^{ミメ}ス^{ミメ}ク^{ミメ}ア^{ミメ}ラ^{ミメ}サ^{ミメ}ニ^{ミメ} 衣^{ミメ} 才^{ミメ} 袖^{ミメ}ガ^{ミメ}衣^{ミメ}ニ^{ミメ}ヌ^{ミメ}レ^{ミメ}テ^{ミメ} 長^{ミメ}ノ^{ミメ}夜^{ミメ}ヲ^{ミメ}雞^{ミメ}
紫^{ミメ}シ^{ミメ}マ^{ミメ}ス

此^{ミメ}衣^{ミメ}集^{ミメ}集^{ミメ}北^{ミメ}北^{ミメ}歌^{ミメ}あ^{ミメ}れ^{ミメ}ど^{ミメ}右^{ミメ}の^{ミメ}天^{ミメ}皇^{ミメ}の^{ミメ}御^{ミメ}製^{ミメ}衣^{ミメ}あ^{ミメ}る

ざるあり八回集一の三山は法皇日本紀は内裏の驛
を考へて志保し萬葉集十小部歌集小 秋田の
家の内ををつくり我をれば衣をさむくおぞれま
ふけ家とある小同じきあり この内はのいふはさ
あまバふてはハをの如くさむべしうひはあひの
さぬあまバふ驛用ありてこの内はのいふとあまハ
あづふとのあまあれるものそとて偏ひいそれと
あまあひあやちれしあま驛のあまバをのさむる
あまあまのあまさひれくあひれく成川。月夜と
しぬとし。あどあり

持統天皇

大津父ハ天智天皇大津母ハ蘇我山田石川麻呂大臣女
達知娘也天皇法女名ハ鷗野ヲナノイフメ良皇女リョウ法儀ハ天智廣
野姫天皇とやなる始ハ天武天皇の皇后ヌヒメあり天武天皇
崩後して後四年正月即位あり八年ふ初を明日香湾キヨ
御所ミヤより移るふとし終ふ文武天皇大寶二年十二月
小崩ありし明日香岡ふ葬りありしなり

春すきそ復すふけし白妙の衣ほすてふあまの香々山
新古今集復すふけし白妙の衣ほすてふあまの香々山
一小部歌集法皇天皇法皇御所よりて才二寸復来良之方四

夕夜乾有とあやをつゝへあやせれるあり

○春ハイムす、ヨシテフツ、フツ復ガキタサウナ アレアノ 天ノカグ山ニ冠冠輝輝 隻

ノキセノガホシテアルハ

白妙ハ衣の冠冠輝 天香山大和國十市郡ふあり

枋本人麻呂

枋本臣ハ孝昭天皇此皇子天押節日子令此後あり
姓氏祿小敏達天皇法皇依家門有枋樹謂枋本氏と
あり天武天皇十三年小臣を新居と改め給へり人丸ハ集
集集小此ハ人ハて時受ハ法法原新らり集集の未
下此人ふて所兄もの属サクラムなあどふありて下りてその國

あゝいさふふ
流群あり

小て死せしむあやとあはれしり集集のあはれハシガキ
死ハとあはれバ友位あつゝらぬ人あるべし

あしひき此山名の尾のまづあを此あづくし物を招ハシ人
拾ハシ集集あ、初歌あつゝ入れりもとハ集集集十一
小家物陳思ハてふまの中ふありて後人ハてああ

○正三ノナガクシイコノ秋ノナガノ夜ヨ 意シウ思フ人ニセアデ

招リネヤウーカイマア

此あ序あふてあしひきハ山此冠冠輝山名の尾ハあま
を此あれバあづくし序ふいへり集集集七ふ 尔そつ
るのけ此あまをのみづりあをあづきあゝるもれもほ

えぬのもとある多ぶひあり山々の雄雄等をへめて
窠ふ多とへりといふ後ハ序前の歌をあゝぬちひボ
やあり

山新赤人

山新赤人ハ歌宗天皇元年春月新小楠といふ人山新
連姫を嫁へりて天武天皇十三年ハ新赤人といふ人
みえして他のもあふんねれば父祖つ成びらあふり
代ハ元正聖武此代此代人あふりハあふりて
山新を山新といふいみじき誤あり山新ハ山人の姓

て別あり

田子新浦ふち出てみれば白妙の多あふりて
新古今集冬歌歌多とて入れりもとハ新集三
山新有赤人望不山作一首 短歌とありて此
短歌別今あふりて首句田兒之浦從腰より真白衣結雪
波零家留とあるをつへあはれあり

○田子ノ浦ヨリ山陰ノ磯ツタヒノ乃ヲ出ハナレテ向フヲ見ヤレバ
マツシロニ 富士ノ山ニ雪ガフツテアルワイ サテモなるイモノカナ天
ニトバクヤウニ見エテドウモイヘヌ面白イ景色ナヤハ

田子浦ハ後河國戸原郡富士山ハ富士郡ハあり此

此其のいふはあひふあくるいふなり

猿丸大夫

此の姓もいふいふある人ともあつた法流あれど
皆うけづゝし猿丸名ふて大夫と五位の人を以て
りたのち今集ふは後人あつたあやを何ふりて猿
丸とせしふの後世好事のものもあつたあやべし

於く山ふるふふふけふの藤の葉まきく時ぞ秋のふれ
古今集秋は是のふれのみこの家のあやのふれあり

○秋ハ惣辨出シイ時節チヤガヤ秋ノ内デハ又ドウイフ時ガイツ
チ出シイゾトイヘバお景モモウ教テシマウタ 奥山デモチツ

夕お景ヲ麻ガフミ分テアルイテ唱声ヲキク時チガサ 秋ノウチ

デハイツチ出シイ時節チヤ

中納言家持

大伴氏ハ^{ミチノオミノミコト}ミコトノ商あり然日本紀ハ延暦四年八月^{ユヅ}ユヅ

中納言ハ三位大伴智祢家持死祖父大納言智智^ハ二位安麻

呂父大納言從二位猿人^ハユヅ出為陸奥按察使居無幾^ハ持中

納言死後二十餘日其屍未葬大伴^ハ持中竹良等殺種^ハ持中

發覺下獄按檢之事連家持等由是追除名其息永主等

並屬流^ハの^ハ依を収小伴^ハ智男家持の罪をさらしをやて

ち三位小復させられし中納言家持の罪をさらしをやて中

納言の姿をうへし給はれるるハ何ふも足る矣ふなをこの
あやむねつゝあし続紀ハ死とあるハ除名して庶人
とせられしあハ六位已下庶人ハつゝあるまて此法にて書
ぬ所あり淳和天皇の法諱大伴あるふらりて弘仁十四
年ハ初ありて大の字を除て伴とせられぬり又大友氏
ハ別して大此字を除て

加す此れハぬせぬ橋おおくおの白きをみれば夜ぞよる

秋古今集冬歌歌あふ次とあり

○林中小橋ニシロくトおノツテアルヲ見れば夜ガサキツウ

フケテアルワイ

禁中此橋を天降れ鳥鵲橋とあずへいふハ詩
小も足るぬり此橋おおくあふぬのその家集
てふそのふハあれど信づゝきあるり

安倍仲麻呂

安倍、鈴鹿ハ姓氏録ハ孝元天皇太子大友^{オホトモ}令^{ミコト}の後あり
といへり仲丸の父祖ハ古傳ハ中勢大浦^{フナモリ}船^{フナ}子とあれ
ど続紀ハ足^{ウケ}ハ信づゝし聖武二年八月多治^{タヂ}比^ヒ真人^{マヒト}
阿^ア加^カタ^タモリ^リ唐^{タウ}使^シの時留^ル学生^{ガクシヤ}として唐^{タウ}ハつ^ツつ^ツされしあり
これ國^{クニ}此^{コノ}書籍^{シヤク}詩^シ多^タふも足るゝありて皇國^{オホホノクニ}小^コのへり
といひ又ハ明州^{ミョウシュ}の海^{ウミ}に溺^{オホレシ}死^シしといふも誤^{アヤマ}りありハ

其時重なる溺死多りと云へしや李白が詩に明月不歸
沈碧海といふありそを思ひて溺死しといへるあり天
平勝宝四年^{ノキヨカハ}並京洛に於て改國の時ふともあへりけん
を明州の海に溺ふありてあるのしこへ吹もどされて
此ちふの此國にてありしあり続紀に絶^{キタ}を絶ひ
流日本後紀に正二位を絶^{キタ}りぬるもてあるなり仲丸
又の名に朝衡といへり

天竺原ぬりさけみれば春日あるみのこの山ふいでし月も
ち今集露旅の唐より月をえてるけはとあり去
佐日記に八首句あをるあばらとあり

○今カウ空ヲツト遙ニ見ワセバアレク海ノ上へ月ガ出タ

ア、アノ月ハあやノ三笠山へ出タ月デアアラウカイマア

甚探法師

此傳の傳にゆれをのましたる今集はのものふと親仙
基泉などあり橋^ナ奈良^{ラマロ}九子といふ後ハ時代を考へ
ぬ誤あり

又の唐ハ邦の多つと云うぞ其世をうたふと人いふあり
ち今集雜記に云々といふあり

○ワガ唐室ハ京カラ辰己ノ方遠カラ又宇治山ト云々外ノ
人ハ比山ニ住デミテモ京ガ近イ故ヤバリ世ノウイフガアツテドウ

モスマレ又山ザヤト云チヤガ拙俵ハコレ
此通リニ^{エこの}年久ミウ住テ居^{サぞ}_{ヲル}

三の勺を結勺の下ふつけて心ねべし

小警小所

小笠原氏ハ姓氏録小大徳小笠原妹子家于近江國滋賀郡小笠原村以爲氏といふ所雙仲云小笠原小何ガ父祖つまびつちあつた今集小笠原貞樹とらみのせはあ何れに京じ氏あれハ親族あるべし後撰集小笠原と石山あつてとてのせはあ何れ傳ふといふ所あつて通照とあり詞書のやうあつた故久しうぬぼつてあつた文徳天皇此時あつたうりあつたあつたれといふ

康秀が三河掾になりてあづき尼がハえいであじ
やといへぬ返るふらめぬがハ又すこし後の事あるべし
右今集は撰集ふ小町が婿の翁何り又後撰集ふ小町
が孫の翁何り皆小町が婿小町が孫とと志成されし
家ハ小町が名のぬあきゆゑなりおね郡司良兵衛が女
とすぬも時代を考へざるあやまりありと云ふ所の
江次第ふ小町がるをぬ本國死云ぬ屍立八十番外と
あぬハ中ふ拙作ふてふるおほく出来ぬ時と
とすぬ免づししくなりあしあるをぬことと云へ
ぬ後人のあきハしとやとて捕はし令をひき又老てお

ちあふれゝ家来どあやしき流言もあふれやとて戸
令をひきて、あく悔ぜり小町さへハ世俗ふくすぐいへハ
皆妄説なり

古今集春効題より更とあり

○ 丑エ、花ノ色ハアレモウツロウテシマウタワイナウ

いさづき
一度七

ズニサワシハツレソフテ井ル男ニツイテ心苦ナリガアツテ

イロ
ハ
ト

ムヂヤクモナカツタアヒダニ長雨がフツタリナドシテツイを

ハアノヤウニア

世ふふと八男女ありて此す故をいふあり物読寺

ふもてむゆゑはふたはたはし

蟬丸

父祖姓氏ともふたれ受くるべきの役多かる中ふ近
世のいやしき猿杓といふものゝこゝにそのなとハ
いみじき義説あり同本今昔物語に宇多天皇の
皇子式部卿の親王の難色^{ザフニキ}あるが帰丸とてはふあ
ふ坂山ふ位とるふ源朝隆三佐ハ三度あるひて琵琶
北秋曲ハるゝりといふ

ふれやうにもあるも別れてゐるもあつぬも逢坂雲
後撰集竊、第一お坂の雲小庵をうつして、付け像小ゆき

のふ人を^てとあり素性^集あも入れりとも小腰勺
こうれつとあり

○京カラ田舎へ行人モ田舎カラ京へカヘル人モ知人モ知ヌ人モコ、
デワカレテ又皆コノデ出^多チヤソコデ^多坂ノ^多名ヲツケタ
ハコレヤコノユエヤカ

そ勺^多括勺^多の下^多ふつけてき^多ぬべし
と大洋^多とあるふあり

冬儀管

小野氏八^多出文徳実祿小仁壽二年十二月參議^多大辨
從三位小野朝臣篁薨^多參議^多四位下^多峯守長子也^多承

和元年為聘唐副使明年春從五位上^多五年春聘唐使
等四^多舶次第^多泛海而大使參議從四位上^多藤原常嗣^多駕薨
一^多舶水汰^多穿缺有詔以副使第二^多舶改為大使第一^多舶篁抗論
曰朝議不^多宜再三其事^多亦初^多定^多舶次第曰擇取^多寂者為第一
舶分配之後再經漂迴今一朝改易配當危器以已福利代他
害損論之人情是為逆施既無面目何以率下^多篁家貧親老
自^多乞^多療是篁汲水採薪當致^多匹夫之孝耳執論確乎不復
駕船^多云六年春正月遂以捍詔除為庶人配流隱岐國在路賦
謫行吟七十韻^多云それより先^多結日本^多後紀^多小承和五年^多遂
懷幽憤作西道謠以刺遣唐之役也其詞率與多犯忌諱嵯

嵯天皇覽之大怒令論其罪故有此竄謫云々承和七年
二月召流人小野篁同年七月小野篁入京被黃衣以拜謝云
此年九月叙本位ハコ漸昇進して同十四年正月位四
位下小野篁為冬議と見え文徳實錄小仁孝二年十月
就家授位云々

日多の原ハサ嶋うけてとぎ出ぬと人ハつげと海士の釣舟
古今集羈旅初小強岐の園小糸のされと秋時小糸小
此りて出生つとて京ある人のもとつといしと
あり

○ユクサキハイクラヒナク庭ミママタル嶋ミヲ過テイクベキ

海上へ今出船シタト云コトヲ故々ノ人ニシラシテクレイコレアノアチ
陶テイクアマノツノフネヨ

僧正遍昭

始ハ良岑宗貞といへり良岑氏ハ姓氏録小位四位下良
岑安世是桓武天皇法子也延暦廿一年十二月特賜姓云々
宗貞ぬしハ右の安世親王の子也後日本後紀小承和十二
年正月位五位下左兵衛佐十三重正月為備前女又兼
左近兼女將嘉祥三年正月位五位上父德實録小嘉祥
三年三月云々左近兼女將良岑親王宗貞出家為僧云々
宗貞也先皇崩後哀慕無已自改佛理以求報恩時人感焉

三代実録小元夢三夢十月為權傳正仁和元年九月為後
正仁由扶桑畧記小寛中二夢二月二十日左大臣奏花山後
正昨夜入滅云云今昔物語小元夢云云ハ文徳天皇皇太子
此時法おほし小元夢ハす仍て仁明天皇御治ふ時出
家せりとあり

天つ風雲の通ひぢ吹とぢををめすづゝ志づゝとめん
古今集難於五節の舞姫をみてとめ歌とあり

○アノ天女ノ舞ノスカタガキツウ面白イコトサリオホイニ 空ヲ
フク風ヨアノ天女ガ雲ノ中ヲトホリテ天ヘイヌレ乃ヨ吹トゲテ
ナレヌヤウニシテクレイソシタラセウシバクヌメテオイテマツツトア

ノ舞ヲミヤウニ

湯米院

大炊父ハ清和天皇大炊母ハ中納言長良ハ女ニ條后高子^{タカイコ}
リ天皇清和ハ貞明トヤなる云々又又正月即位同ハ後
二月懷佐天曆三夢九月二十九日^{タカ}為^{タカ}法^{タカ}證^{タカ}を院トヤなる
るしくハ冷泉院とリをじられハ此天皇を院トヤなる
ハ後世の誤なり

序くば^{タカ}の^{タカ}山^{タカ}を^{タカ}り^{タカ}お^{タカ}つ^{タカ}る^{タカ}み^{タカ}の^{タカ}川^{タカ}を^{タカ}ぞ^{タカ}横^{タカ}て^{タカ}割^{タカ}と^{タカ}あり^{タカ}ぬ^{タカ}
後撰集意部三ツツの^{タカ}の^{タカ}み^{タカ}と^{タカ}ふ^{タカ}つ^{タカ}の^{タカ}し^{タカ}なる^{タカ}と^{タカ}あり

○筑波山ノ峯カウ居テクル水ノ如クニ 寂初ハハヅカニ思ヒソメタ

コトデアリツタニ今デハソノ水ガツモリツモツテ、蘇ノミナノ河ノ邊ト
ナル如クニワシガ志ガサツモツテフカイ思ヒトナツタ

筑波山又其の川とも小なる陸地あり 片くそのそハ

清テとむべし 又其の河のみを流る水といひのけ

給へり

河原方大臣

承和乙未十一月、記小源朝臣融於内裏冠焉、天皇抽筆叙正
四位下、嵯峨太上天皇第八子大原氏、所産也、賜之天皇令、為
子故有此叙、同十五年、右近衛中将美作守嘉祥三年、從三
位、貞觀十四年、左大臣寛平七年薨とあり

又其のこのまづもぢずり、誰かふみぢれそめふし我ちとく

ち今集意、初歌まづ、次四のふみぢれんと思ふとあり

○二三 誰かニ外へ心ヲチラスウソ、オマヘヨリ外ニ心ヲチラスワシガヤ

ナイゾヘ

上ニウハみぢれんの序あり

光孝天皇

大治父ハ仁明天皇大治母ハ贈太政大臣藤原總持公女贈
皇太后澤子あり天皇大治諱ハ時康と申なる三代寛弘
小承和十二年二月元服同十三年正月四日、それより五位
々々、經路ひて元弘四年、孝隆、大守同六年、一、同八年、三

月四日百官捧宝玺鏡劔等於一條宮五日奉迎新帝_仁即位大極殿_云仁和三年八月崩同九月葬山城國葛野郡後田邑陵諸陵式云田邑鄉立屋里小松原とあり

君が坐め春の雪ふ出て_あ菜つむ日が衣で小雪ふふりつ
ち今集春初仁和の帝みとふおつしゆくしる時ふ人
小口うれ給ひる法まといあり

○ツコモトへ進ゼウト存シテ登へ出テ此あ菜ヲ摘ムガ孫ノホカ
寒イコトデ袖へ雪ガ降りカツテぬく難儀ヲ致シテ摘ムガ

菜デゴサル

中納言の平

父ハ平姓_云皇皇子彈正_云四只阿保親王母_云の_云し天長
三年在京_云鈴島_云の姓を給ふ仁明天皇の御時_云佐々_云り立
て_云物成_云と_云え_云ふ_云い_云多_云中納言_云不任_云宇_云多_云天皇_云寛_云平_云と_云多_云
小_云と_云法_云記_云ふ_云ん_云し_云り

立_云け_云の_云れ_云い_云京_云バ_云の_云山_云北_云家_云ふ_云お_云ふ_云る_云ゆ_云り_云し_云ま_云ふ_云今_云ふ_云り_云ん
ち_云今_云集_云離_云別_云給_云給_云ふ_云る_云更_云と_云り_云り

○今此方ハ京ヲ立テ別シテ因幡ノ國ヘ下ルガ至國ノ因幡山ノ家

ニハエテアハ松ノ名ノ通りニソナタガ此方ヲ待ト_云咄_云タナラ_云チ_云キ_云ニ

又カヘツテコウハサテ

在京業平朝臣

父ハ以重ト不同シ母ハ伊那内親王イナノミコ爲少三代実録不允
系圖又乙酉二十八日從四位上上右近衛持中ミナモトノナカ爲兼ミ懷持
者在京勅局業平ノ華業平者京四男阿保親王第乙之子
三位以中納言以重之弟也阿保親王要桓武天皇女伊賀イハ
内親王生業平トありシメニコ

○此立田川へシゲウを多ノナガル、トコロヲミレバトシトお麻子おシ

ちをやぶるハ神の冠様あり
くまぞめハ續續といへ
ハ此あり

義家朝臣八内^{ウチノナニナカトノムラシカマタリ}中^{ナカ}臣^{ミコト}連^{ツラナ}強^{ツヨク}足^{タラシ}公^{キミ}天^{アメ}智^チ玉^{タマ}皇^{ミコ}八^{ヤチ}成^{ナリ}小^コ義^{タカ}家^カ臣^{ミコト}
 を^ヲ賜^{タマフ}ふ^ニ生^ナ子^コ史^シ公^{キミ}天^{アメ}武^{タケ}玉^{タマ}皇^{ミコ}十^{ジュウ}三^{サン}成^{ナリ}小^コ五^ゴ十^{ジュウ}氏^シと^ト有^{アル}不^{ナシ}朝^{チヨウ}
 臣^{ミコト}の姓^{セイ}を^ヲ賜^{タマフ}ひ^ニぬ^ニ此^{コノ}史^シ公^{キミ}の^ノ子^コ武^{タケ}智^チ麻^マ呂^ロ房^{フサ}品^{ザキ}宇^ウ合^カ麻^マ
 昌^ロ等^{ナニ}あ^リし^ニ叙^{シヨク}し^ニ朝^{チヨウ}臣^{ミコト}八^{ヤチ}成^{ナリ}武^{タケ}智^チ麻^マ呂^ロの^ノ子^コ按^ア呂^ロ使^シ安^{ヤス}士^シ

麻呂子ありのくて右来つ替四佐小て延喜七マロは小ふると
拾枝抄小ふくあり三代実録小仁和二より月長六位と
色衆持佐より右近來ぬ小替るく見ゆ

臣のえの旨ふらる浪ちるすや夏のものをひぢ人めとらん
ち今集意新寛平の由時后まのふ合のくことあり

○昼ホニマニ通フ乃デハ人目ヲハバカルモセハズノコトダヤガ三
夜ニ後ニ通フトミル乃デマデ人目ヲ憚テヨケルヤウニミルハドウ
シタコトダヤヤウ

一二の勺はちるといそんの序あり　ちくるのくも
じ清スミてちむべし

伊勢

父ハ伊勢もツグカケ後滋三代実録小仁和二より月長六位と
後伊勢もムスとありちれば此ほどムスそ女めちづく

小出の所故小伊勢をもて呼名とせられしあるべ
難波がみじき芦のふ乃ちもあいで此世を過スグしてとや

新お今集意新一小歌志と更とありち集ふも歌かし

○トウ三ジカイ芦トツシノ一節ノスコミノる七思フ人ニ逢ハズシテ此世ヲ
スギテシマヘトノコトカヨサテモくツレナイ人ヨノ

難波浮ハ芦をいそんの序あり　津國今の大坂あり

元良親王

清父ハ功成を望日本紀思ふ事云六月二十三日三
品岳訪つ元良親王と云とあり

ワビぬれバ今を同じ難波あるみをつくしても逢ふと思ふ
後撰集恋歌云小事いでして後小系抄のみや花雨つふ
しるゝとあり拾遺集小八歌云と又とあり

○コノヤウニ大^{コノ}ニナツテ^{ワビぬれバ}難^{今を}ヤスレバセウハマタヤブレカブレチ

ヤラタム大^{コノ}ニナツタコトナレバ今うトテモヤラステタモ同ジコト

テナニ^{コノ}バヤゾイ^{ツクしても}ワシガヲヤステデモ^{ソナタ}シイ^{アハ}テ方ニ^サフ^サ

思ヒマス

漣^{ミツツクシ}標を身をつくすふいひうけりうひは奈びふ今

もハ今をこしてありとて集集一の分のそやこ
うひもといへるをひきていそれとハ思ひあやばられし
あり

景性法師

鳥羽在信の時の子あり大和相後小通昭の事をいふふと
と小い後すうけけは時の子ども在なり太^ハ友^ハ通^ハ昭^ハ
とげて處として在なりうくそ小い後すうけと又時ふ
とて母もやううけられいさうけられ法師の子ハは
ふしあるぞとまとしてそも法師小系してなりとあり
此法師の事枝桑若記にも見えたり

今とんといひしげのり小長月ノの者明ノの月を待出つるなり
古今集ニ歌歌志ノ文々何り

○オツツケツル糸ウウトステオコシタバツカリニ此九月ノ末ノ
夜ノ長イニサテ待ホドニマツホドニオソイ有明ノ月ガハヤセウ出
タワイ約束セセナニタ有明ノ月サへ待ダシタニソレニサ待人ハ扱モク
コヌトカナハハマアドウシタコトゾ

文彦原

文彦原人ハ姓氏縁ホトモ天皇皇子ニナガノ長親王ノ之後也と
あり康孝の父祖ハモツバ友ハ古今集ホニ河原原ノし
る人々なり友の父ハ郷原ノあるを誤りて康孝ノし

るあんと髪ゆいへり

吹うハ小枝の草木の志をるれば山風をあじとわふらん

古今集秋初是貞親王の家のあ合のあハあり

○フクトモ秋ノ草木ガアノヤウニシヨレバユキナコトダソレデ山ノ

風ヲアラシトハスデアウウ

大江千里

大江朝臣ハ天極目アメノホジノ今下十四年孫ヌミ朝臣ノ宿祢ノの後ホトモトハ

古師氏ハジホトモト源氏秋篠アキシノひとつあり也曆九年ハホトモト五位上

太師宿祢モロヒト諸人等小大枝朝臣を始ふ大枝の志を音人オトド郷

小とりて中流て大江と改らぬ子里ぬしハ音人々の

男ありといへどおぼつゝあしと思ふ家のいなり

月見ればちふ物了そつやしけれあまひとつ秋六つしぬぞ
古今集秋歌は貞のみのこの家のあ合ふらめ家といなり

○月ヲミバオレハイロクト相ガサ悲シイワイオレヒトリノ秋デ

ハナケレド

養家

養家朝臣ハ大江朝臣とそもと同じき事上小いなり又
ハ多々後世三位是皆々あり養相亟名ハ道志貞觀十二
年對策及第多々皇の侍流をれり多々此階を
降て昌泰二年右大臣四年正月廿五日為太宰權帥中事

也延喜三年二月廿五日位三位太宰權帥菅原朝臣薨
於西府とし史諸記多ふなり又扶桑略記小正喜三
年四月廿日右大臣養家朝臣詔賜本職兼増二階昌泰
四年正月廿五日宣命令燒却之号大富天神一曰延長元
年閏四月贈左大臣位ともなり是れ家のあふ小養家と
此みあ家といふはふりバ養贈大政大臣あふやあふ
んといへり

此れあふハぬさもと里あへばふ向山あふの神神のあふ
古今集西騎旅の朱雀院のあふ小おりしあふなるあふ
ふ向山小てあふといなり

○此處ノ旅ハ涉候ニ又サセ得月迄サナシダツレ候神ノ由カ
ニト存ジテ昂^{ニテウ}此山ノ系ノ綿ヲソノマニ向マスル

此處ノ旅をいひくけ給へり

三條右大臣

父ハ内大臣ヲ為スあり右大臣ハ定方公也長ニ建正月大
納言より右大臣小任承雲ニ建八月景と日本紀若扶余
著紀号ふるなり

名ふしおとど建坂山此さねづ人ふちれ下るしものめ
後撰集此のふをんあふとへつりなるあり

○相坂山ノ逢トイヒサネカヅ^{ミラウ}フノ生^{サネ}森トイヒ又ソノカヅヲ操

ト云名ニソノコトヲ買テアルナバ人ニミラズニ女ヲワカモトヘタグリ

ヨセテ逢フテネタイモノナヤ

二三トウを吹来してさねべし 和名坂小五味^{佐加良}

とありあま集ふさあふととありてさね^{ナメ}らふ

あり玉づくといふもそあり俗ふいびあんづ

あり

貞佐公

父ハ大政大臣基理公也宣公ともいひ貞佐公律公名
也喜九建九月持中納言山下右近大將をうけ同十四
八月大納言より右大臣小將也長ニ建正月左大臣同ハ建九

月抄改承平六年八月大政大臣天曆三年八月養子一位
猛貞信云封信濃園と日本紀畧杖桑畧記をみるに
をぐら山家の御孫バハル今一度のみゆきまうとある
拾遺集謄部秋小亭子院テイジノナム寛平大井河小法をありて
りなもありぬべきところありとおゆせ給ふことの
らし奏せんとおをしてとあり

○小倉山ノ家ノ御孫ヨ此度上皇ノ内院ナサレテキツウ内賞イサナ
レテ今上モ内出ナサレテヨロシキ所ナヤト侍セウルニエソノコトヲ今上
ニ申上ルナガ申上タナウ内院ニ出出ナサル、デアラウニそ方心ガ
アルナバモウ一度ノ行幸ヲナラズニ侍テ居ヨ上皇バカリカ今上ノ

行幸ニモ多トスコトハ有難イコトデヤソヨ

今上ハハ切なといひ上皇ハハ切なといふあり
小倉山ハ塔塚の大井河の邊にあり

中納言兼補

祖父ハ冬フユ嗣云子内舍人食國父ハ冬タカフヂ爲公卿左中納言トシモト
あり兼補々也喜正一年冬儀迎長年増三位中納言
八年冬右近衛時承平三年冬爲公卿補任ふんといふ

みの系りてあるといづいづとまこととてとひしうらん
新古今集意部一小部ありとあり

○上三句 イツんタコトガアツテ意シイノデヤシラヌツヒニタコトモナイ

人ノ意シイハカハツタコトナリ

上比々ハ序あり 三番原泉河にも小山城國おそ

小あり

源宗子於此

父ハ光孝天皇皇子二品式部卿是也親王あり宗子於此
ハ右京大夫五位下等三年卒於茲故於此あり
山里ハ冬ぞさびしさはさるる人めも事ものれぬと思へど
右今集冬終その分としてあるとあり

○山里ハイツテモサビシイガ冬ハサベツシテサビシサガマシタワイ 人ノコ
コトヲ人目ガカレルト云々ヤガ今マデハタマクミエタ人目モカレル草モ枯

タニヨツテサ

のれぬと思へどものれぬれど小不同じ右分際

凡河内躬恒

オホシカウチ

アマツヒコネノミコト

ノクニツゴウノオヤナリ

凡河内ハ右事記ハ天保度根令是凡河内國造等祖也

とあり躬恒の父祖より次女ハ右今集序ハ甲斐女目後

カヒノサクリム

撰集ハ波瀾振又内耐子に歌ありしものと見しなり

心をてふをばをん初おのおきほじはせぬあざくは花
右今集秋終あざくはををらぬとあり

○アノヤウニ初おがオイテ花ヤウおおヤウシレヌヤウニガフテミエル白イ菊

をあて

花ハ タイガイスイリヤウデ折ラバリモセウカナカクミウケアルコトデハ

ナイ

壬生右岑

ミヅノガミ

アヌタラシヒコクニオシヒトノ

ニブバンギニ

壬生長八姫氏祿小天皇是度國押人令後やといひ壬生公ハ
宗神天皇後や云といひ此二つれうち何れを岑の先
祖あるや云いし賢中三代実祿をひきて左近右衛門
兼播磨掾の祿壬生直益朱が子などいふやといひ壬生
をみふと後ハ湯あり丹生と同じるふてにふと後ハ
有明のつれくえし別れあり曉をうりくすもれハあし
右今集意の祿ありと文といひ

○マヘカタ女ト曉ニ別レタ時ニ有明ノ月ヲミタレバシキリニアハレヲ催シテ

アミアノ月ハ夜ノ明ルノモシラヌカホデアノヤウニジツトユルリトシテアルニ

オレハ夜ガアケレバ帰ラネバナフヌコト、テ ありタイトニロヲ別レルコト

カヤトオニミミぐト思ハレタガミ時カラシテヨニ曉ホドツライ物ハナイ

ヤウニ思フ

坂上是則

サカノハスグネ

坂上宿祢ハ三代実祿小外孫已佐下坂上伊美吉能文云

第九人姉姪坂上宿祢後漢孝宣皇帝四代孫阿知使主之

喬ト云いしや其初めし又祖志ハ此人於坂上太

内記とあり

朝がけ有明の月と見る中そふしひの里みぬれぬあり雲

古今集巻初大和國小町のれりたる時小雪のふりたる
を記してあるとあり

○カウ夜ノダにウリト鳴タ鳴ニミレバテウド者なる月ノ影タ執トミエ
ルホドニ吉遊ノ里ヘ雪ガフツタ

春遊列樹

ハルミチノスクネ
春遊宿祢ハ三代実録小貞親六年乙酉右京人因懷持親
正六位上物部門起錫姫妻乃宿祢トあり是時宿祢の人も
大和國何れ郡ト也小妻乃村ありてそと小妻乃とい
ふ社も有りといへりそ地小なりて出し氏あるべしとい
へり列樹ぬしれ父祖志々更

此何小風のわけ多岐志々みハなづれもあへぬお集ありなり
古今集巻初志々此山越不てと免れとあり

○山川ヘアレ風ガモテキテシガウミヲカケタトミエルハエナガレセセス
ニトマツテアルお集ナヤワイアレハ風ガ吹クデアマリシゲウお集ガ
チツテセキカケくナガレテクルニヨツテサウくト下ヘエ流レテハイカズ
ニアリ色リニシガウミノヤウニヨドムナヤ

紀友判

紀氏ハ古事記小建内宿祢之子并九云木角宿祢者木
角部奴臣坂本臣等祖トありてそ先ハ木角宿祢あり
紀の事もハ未なるを中世改れり父志れがし友判今

集席小大内記とあり

ひささのゝひのりれど々々春の日ふとつゝ心あくるものちあらん
ち今集春の極此花のちつるをく免るゝあり

○日ノ光ノドカナユルリトシタ春ノ日ヂヤニドウイフコトデ花ハ此ヤウニ
ザワくト公ゼウシウチルコトヤウ

慈宗真風

父ハ慈宗真風ハ号院、着太下總持、大振迄喜十一年お持振
授之位下と抄被抄ふあり足幼孫の六ハ何ふとありんお
ほつゝ宗しといへり

多れをうもする人ふせんふ破の松もむのしのあきくよくに

右今集雜の歌あゝ更とあり

○オレハ此ヤウニキツウ年ガヨツテ今デハセウ同ジコロアヒノ友セネカウナ
イガ誰ヲマアおもニセウゾ山ノ上ノ松ガ年久シイ物ナレドソレモ昔
カウノ友デナケレバおもニハナラモセウ松ヨリ外ニオレガクウ井年ヘタ
物ハトントナイ

紀景之

紀氏ハ前不出づ景之ぬしの父あづしなむ今集席小大
書に紀氏老幼歎ふ天々ハ年三月廿八日任木ユ郎同九年卒
新撰和歌集此席小大書改撰已位下とあり

人いさ心もあゝ更ふる里ハ花ぞむのしの音ふくほひく

清原公家父

古今集春歌 マカタ長谷へマ井ル 夕比ニトマツ タ 人れ
ハ、久シウ中談ニテトマラズニ井テ ソノチマタ久シブリテウイヘ、イタウイソシタレバソイヘノ
家久クシクヤドハレコトホリニサマカタクマデアヒカハラズシツカリトアルザヤトマデヤ
テ、シカマヨスニ成ヤドハレコトホリニサマカタクマデアヒカハラズシツカリトアルザヤトマデヤ
れ、シカマヨスニ成ヤドハレコトホリニサマカタクマデアヒカハラズシツカリトアルザヤトマデヤ
シテダシマシテガサレバ、ニサイテアル 情ヲなれバ、ニサイテアル 心セカハラヌカカハツタカシクヌガ 三 所ハ、サ 花ガ
○人バドウヂヤヤウ いさ 心セカハラヌカカハツタカシクヌガ 三 所ハ、サ 花ガ
ワシガ来タレバ、コレバヤウニマヘカタノトホリノ句ヒニアヒカハラズニホウワイ
いされさもじ清てむべし スミ

此王ハ清原公家父ノ姓を紹ふみん、スエ されバ、スエ づれの裔ナ
いふ事ヲまづし、スエ 此人ノ父ナリ

奈つ此相ハ、スエ 昔ナリ、スエ 明ぬるを云のいづと、スエ 月を、スエ 人
古ナリ集隻部月ノ祐もしろ、スエ たりたる物、スエ 曉るふあると、スエ 者

○ア、ヨイ月デ、スエ アツタニ、スエ 夜ノ夜ノ、スエ 短イコトハ、スエ マダヨヒノ、スエ マデ、スエ フケルマキナ
シニハ、スエ ぬタセノ、スエ 此夜ノ、スエ 短サデハ、スエ 月ハ、スエ 西ノ方ノ山マ、スエ デイキツクマ、スエ ハアルマ
イガ、スエ アノ、スエ 曉ノ、スエ 雲ノ、スエ ドコウニ、スエ トマツタコトヤナ

文彦朝康

文彦氏ハ、スエ 前示出づ、スエ 此人父祖ナリ、スエ 順成院ハ、スエ 康孝ノ子
いれど、スエ おぼつ、スエ の、スエ ありしと、スエ 思、スエ 幼少、スエ の、スエ いへり

白雲小風此ふきあく秋の聲へつゝぬきと免ぬぞちりけぬ
又撰集秋初中迎喜の法時免しなればとあり

○ 葉紫ノ露ニ風ガ吹シキル秋ノ聲ハ泣テヌキトホシテトメテオカヌ王
 か^サバ^ララ^グチ^ルウ^イ | 家ノ玉ガサ

右近

大和物語の事、繩文の事、すめみぎの事、
丁物 えと あり、此人あるべし

又それらも^ををばねを^をびちのひてし人の家のをしくも者の那
 拾遺集意初に歌あふびとあり大和物語ハをとまの里
 それじと^をの^ををうけてちのひをれど忘れふる故に

いひやうとあり

○兄ステウハ、ウシガオノ上ノツウサハ何匠思ヒマゼズ。ぬモカマヒハゴザラヌ
か申ニカケテ折言言ヲ成立ナサレテソノ折言言ニ成ソムキナサレテハ成

爲ニヨイヌバゴザリマスマイハ莉ハヲナサレマセアナタノ友人トニハカ、リマ
 スソエ 拙言言ヲ立ナサレタ君ノ友人トガ惜ウナジマスコトデハスコトカナ

冬儀等

祖父ハ嵯峨天皇の皇子大納言弘^{ヒロシ}ハ中納言希^{マレノ}ハ扶桑
 畧記小天曆元年四月二十六日^ニ以右大弁源等朝臣任冬議
 公ハ補任小天曆己年正月叙^ニ正位下同月上表辞冬^ニ議三月
 十日卒ト^{ナリ}

涉茅生の小姫のちの京恐れどつらうてあどの人此あひしま
は撰集を初ふ人ふつらうしりぬとつり

○エニヤ 胸ノ中ニナットオサヘテコウヘツメド 胸ニハイタマフテアル思ヒガ

アマツテ吾方ガ志シイハドウシタコトヤラ

上ニ勾ハ志比ぶの序あり 涉茅ハ俗ふつを京とふ物ニ

平兼盛

平朝臣ハ桓武天皇皇子一形式初々蜀京親王の御子代四

位下高様里小玉長二年平朝臣を初へるど始ある御志ぬ

しハ大系小祖父ハ光孝天皇の二女良我王父ハ等々といふ

女ハ越前持也勅解由次友國也弘大監朝政何也等ありし事

おもふんお

ちのふれどおもふ小なりむが志ハ物也思ふと人此やふはで

拾遺集を初ふ天曆法始合ふとつり

○ワシガ 志ハ人ニシラレヌヤウニト思フテ 胸ノ中ニオサヘツメド 志後

ハ何ゾおもふ思ハルヤウニテキツウ顔色ガワルイト人ガトガムルホ

ドニ良色ニ出タウイ

三四五ニと勾を次書してさねるべし

壬生おん

父ハおんあり家系小内のおほせるふて父おんが奉
れと石あるふかきつめてなる 言の葉の中をかくく

得ればむうしの人ふあひふれぬの事又 君がふふすのゆ
の故しとおもひせたとハナしものをあみぬの道とあ
はふてあられうりな佐ハなぐしし

意あてふまの名ハあぶ才をふなり人忘れ文了と思ひせしう
拾遺集意第一小天曆時合ふとあり

○人ニシラレズシテサ思ヒ初タノニソレニアワシガ^{上ノウ}意ヲスルト云各ガ

早ウ立タワイマダマアロニ出シテ一言セズタコトモナイニ浮名ノ

立ノハ早イセノチヤ

清原元輔

祖父ハ你^{アキタマ}祖父ハ下^ノ聖書^{アキタマ}歌^{アキタマ}元輔ハ犯後書ありし事

大系圖小見くあり於故叔小永祚元年八月卒とあれを
乙佐ありし人なほべし

ちぢりきぢりきみ袖をちぢりつ末の松山はこすじやうは
以撰集意第一小天曆時合ふとあり

○前方逢タトキ渡ヲナガシテ^{のこもみ}タガヒニ袖ヲミヲラシテ^{しをりつ}末マデモカ

ハラジトハ^{アウ}数リタワイナウ^{アウ}数^{アウ}ニカハルヤウニトハ^{アウ}数^{アウ}リハセヌ

末の松山は^{アウ}浪のこゆ^{アウ}浪といへる^{アウ}ハ^{アウ}古今集^{アウ}隆興^{アウ}前^{アウ}小
君をおきてあぶし心をこぐもあはす急の松山は^{アウ}
こゆ^{アウ}らんとありて^{アウ}き^{アウ}より出^{アウ}る^{アウ}事^{アウ}不^{アウ}て^{アウ}人の^{アウ}心^{アウ}の^{アウ}ハ
るを^{アウ}浪^{アウ}ある^{アウ}ハ^{アウ}み^{アウ}あ^{アウ}ハ^{アウ}せ^{アウ}り^{アウ}あ^{アウ}ハ^{アウ}浪^{アウ}こ^{アウ}さ^{アウ}と^{アウ}

有る心ハありとていへる事あり　すゑの松山ハすゑ
いふところハ松山より陸奥小町より　三の句志はりつ
ふてもとし

中納言教右

公々補任小父ハ本院方大后母ハ左京栋梁女也教右ハ公々
元年位三位控中納言六歳三月薨号枇杷中納言とあり
あひみでの後の心ふくぶれハむかしハ物をおもハずあり
於遺集意効ニ歌さるべとあり

○思フ人三度迄フテカラノ後ノ心ニ迄又サキノ心ヨクラベテミレバ
愈又サキハ物ヲ思ハヌノザヤワイ　愈テカラ後ハ物思ヒノヤム時
むかし

ガナイ迄又首ガイツソマシヂヤ

中納言教右

公々補任小父ハ三條右大臣定才公母ハ中納言山陰女也
教右ハ天曆六年冬後位下位上同十二年右衛門督女也
尚天徳乙年正四位下意和三度中納言同十二月薨とあ
り今昔物語にも此ハ其事なりとあり

あふ事此世してし京くバ中ノ小人をも尊をも恨みざり
於遺集意効ハ天曆元年時分合とあり

○哀ノ乃ニ迄ト云トガアツテ迄レネバサキノ人ヲウラミ又ワガオヲ
モウラムガコレハ迄ト云トガ有ユエヤ　迄ト云トガタエテナクハハ

ツクニサキノ人ヲモワガヲモウラミヌデアラウニコノ多ト云コトガ
ワハイコトデヤ

謙徳公

父八九條右大臣仲輔公謙徳公ハ伊尹公あり此公ヲ録元
年正月右大臣小任正月朔執事庶政同二年十二月大政大臣
三位同三年十一月薨贈三位溢謙徳公封三河國号一條撰
政ト諸記小見しり

あそれともいふべし人ハおもひてでそれいづゝふ来ぬべし
拾遺集云初乙未抱ひひり女の後小つれ来く侍りてさ
ら小あハ更侍りなれバトあり

○アハレイトシイト云テクレルハズノモガツレナウテ誰ガイトシイト
云テクレヤウゾイ外ニ誰モアハレイトシイト云テクレルデアラウト
思フ人ハオボエナウテワガオハ云死ヌルデアラウヤウニ思ハルコトカナ
曾祢好右

曾祢連ハ姓氏祿小神饒速日命六世孫伊香我色雄命後
也紀小曾祢連韓大といふ人入しり諸記亦此氏多のれ
ト好右ぬし此父祖ハ云々後友ハ母後振来りといへり
る母といへり

ゆられとを渡る船人のちをぬきへるを云々ぬき此等の歌
新古今集云初一歌云々云々あり歌集亦も同じ

○由良ノ海門ノ大瀧ヲワタル所ガカヂヲ、ウシテ湊ヘヨリツクコト
ハ出来ズ何所ヘツコトカ 切ヘモシレヌヤウナ 今ガケノアヤウイ 意ノ
乃デハアルコトカナ

由良八紀伊國又八丹後國与謝郡小石あり

父祖志了此更

八重葎 志げれる霜の林しまふ人ぞ見えて秋の来ふなり
拾遺集秋の河原院にて何れの家書み秋来るといふを
人ぞみ侍るとあり

○ヤガ上ニヨセギガ生シゲリテアレタルサミシイ智ニキテモヨイ人ハ

コイデクレバ入サミシクコイデセヨイ秋ハキタワイ

源重之

祖父八幡松王皇子貞元親王父八幡已佐下侍於兼行
と大系圖小あり此ぬし次泉院東宮の時節の常刀と
いへり歌集にも常刀ありしとし是より後陸奥國の
任小下りてこれ國小で方後なりしと大系圖於茲
寫小見由

風をいゝ岩うつ浪のおのれをいゝ波をいゝ
詞集集巻初上冷泉院東巻と中巻時百巻此巻
少々る時小巻と巻とあり

○凡ガツヨサニ雲ニ浪がらナツケル雲ハ何トモナク浪ハクダケテチルガ

雲ノ何トモナイト同ジコトデワガ思フ人ハツレナウテ浪バツカリクダ

おのれの

ケテチルヤウニワミバツカリをヲ色トクダイテお思ヒヲスル時哉

デハアルコトカナ

大中臣能宣親長

ヨリモトノ

父ハ神祇大副祭主親王親長あり能宣親長も亦之位

あり大中臣親長ハ日本紀続日本紀多小依小中臣連孫也

公小藤原氏を始へりし中にくそ末み藤原系とすそ

此後文武天皇の時神事小あづの族ものハ本姓中臣小

のへるべしと勅ありて藤原^ノ系^{オミ}ミ^{マロ}麻呂中臣小のへる

きみ麻呂の子清麻呂称述天皇神護景雲ニ文小中納言小仕あり大の字を始りて大中臣といへり此後その嫡流ハ大中臣といひ庶族ハ中臣といへり

清垣中納言のあゝ火のらるゝをいふはきつて物をてを思へ

詞を集意終上歌あゝばとあり

○禁裏ノ内門ヲ守ル者士ノタクカカリ火ノヤウニ胸ノ思ヒノ火ガ夜

ハセエドホシニセエ昼ハ思ヒニんニ消テおヲ^サ思フ一通リノ思

ヒデハナイ昼夜ノワカナナクお思ヒヲシマス

藤原公我孝

父ハ強流云右近の爲長乙位下王天延ニ度九月卒と也

れづりあふるゝあり

君のあはれをしるづりし今すへがくもつれと思ひたる哉
後於集意初をんあのもとりぬりてつりしけり
とあり

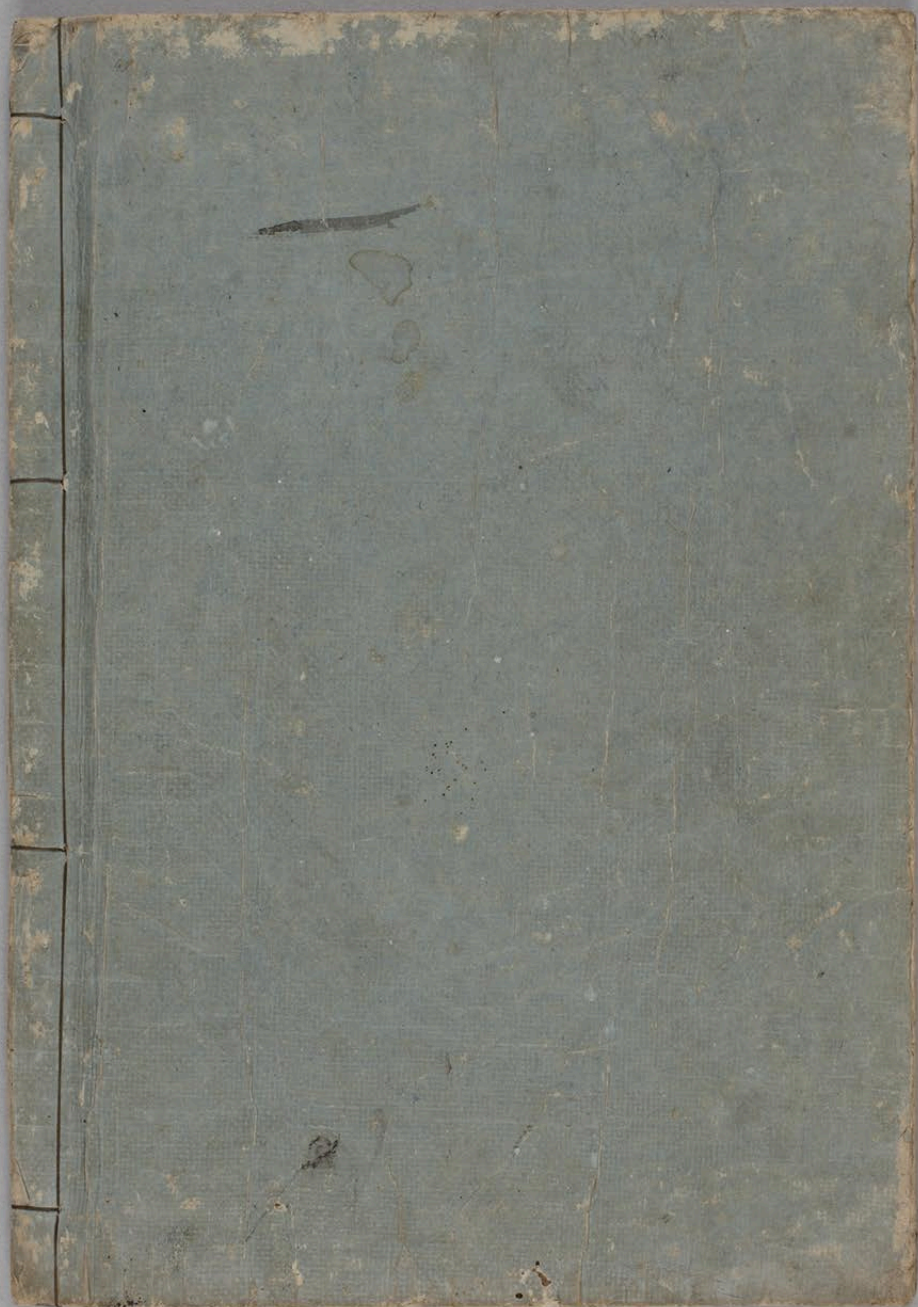
○さヌサキハ令ニカヘテモセメテ一変ナリトモさヌタイト思フテソナタ

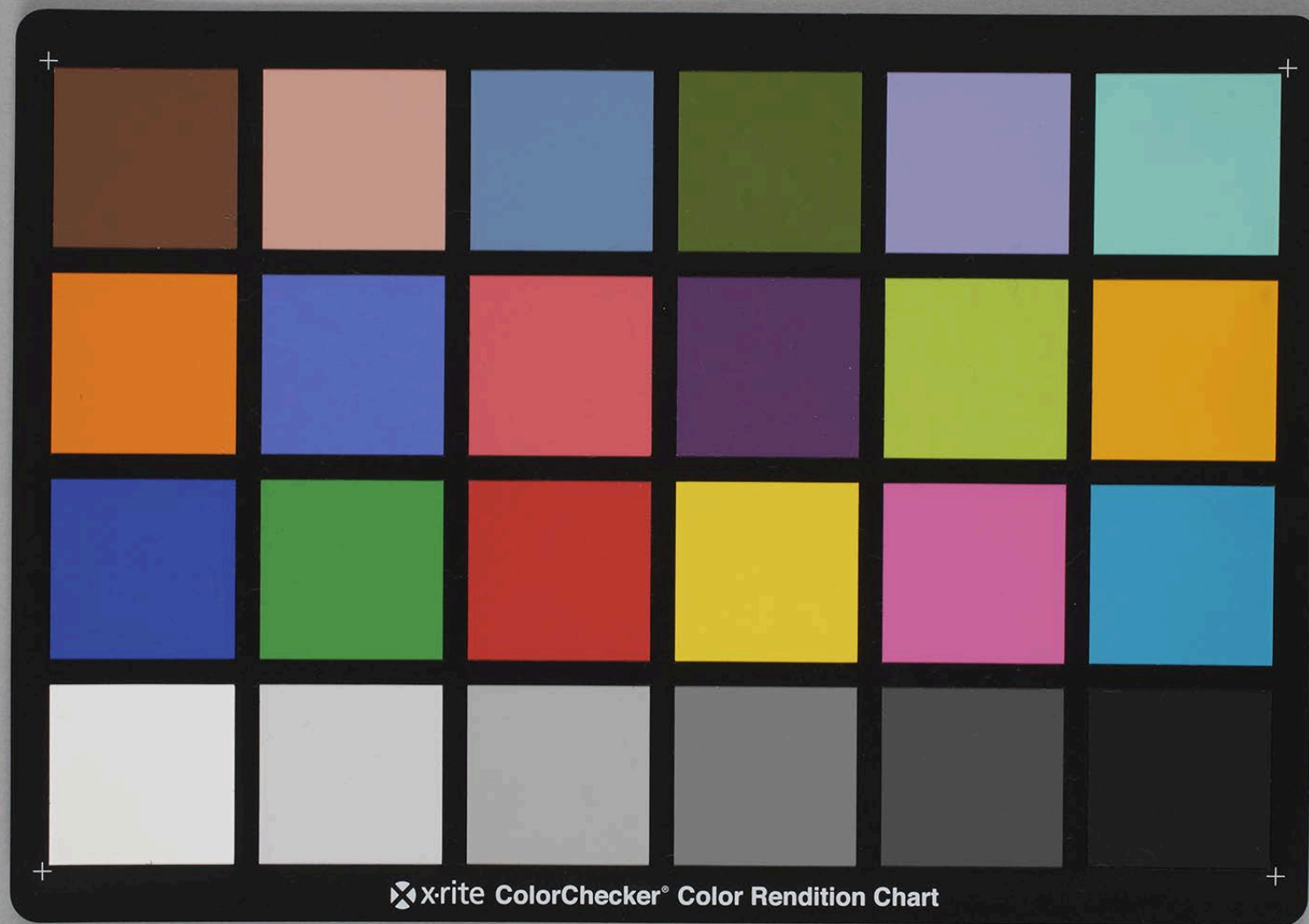
タメニスツルコトナラニホドモ惜ウナカツタ令マテ一変サテソナタ令

郭ノ心ハさヌサキトハカハツテ欲ガデキテドウゾイツマデモ令

ナガウイキナガウヘタイト思フコトデハアルコトカナ

百人一首寧梯上巻終





x-rite ColorChecker® Color Rendition Chart